

「季刊わたぼうし」 第25号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1992年(平成4年)1月1日 '92 冬号

第25号の特集 「ほほえみの石川大会」

自分のもの
私は知っている、
自分のものだと言えるのは
自由自在に自分の心から
流れ出て来る思想と
自分に好意を持つ運命が
底の底まで味わわしてくれる
幸福な瞬間・瞬間だけだ

ゲーテ作・高橋 健二訳

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を超えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

特集・ほほえみの石川大会

シンボルマークについて

- ・このシンボルマークは、昭和39年11月に開催された東京パラリンピックのときに制定されたものです。
- ・五つの輪は、車いすと世界の人びとをつなぐ輪(和)、中心の星は希望、その配列はV字(ビクトリー)で人生を克服する勝利、白鳩は愛を表しています。

大会の趣旨

- ・この大会は、身体障害者がスポーツを通じて体力を養い、残された能力の向上に努め自ら障害を克服して積極的に社会参加できる道を広げることを目的として開催するものです。
- ・したがって、身体障害者が単に記録を競うのみではなく、体の障害を乗り越えて生きていく希望と勇気を育てる大会であるとともに、身体障害者福祉に対する社会の理解と認識を深めることを目的としています。

大会のいきさつ

- ・東京オリンピックが開催された直後の昭和39年の11月に世界22カ国から身体障害者が参加して「東京パラリンピック」第1部(国際大会)第2部(国内大会)が開催されました。これを契機として、昭和40年の岐阜国体から毎年、国民体育大会・秋季大会の開催都道府県において全国身体障害者スポーツ大会が開催されるようになりました。

大会の特色

1. できるだけ多くの障害者が参加できるように個人競技は生涯に一度しか出場できません。
2. 肢体、視覚、聴覚言語障害など、いろいろな障害のある選手がそれぞれ持てる力を十分発揮できるよう、また、円滑な大会運営をするために多くのボランティアの方々の支えが必要です。
3. 障害のある方々が快適に参加できるよう競技施設、宿泊施設及び輸送などに親切な配慮が必要です。

今大会における石川県勢のメダル獲得数

金メダル：36個　銀メダル：28個　銅メダル：22個（北国新聞より）

忘れ得ぬ「ほほえみの石川大会」 一障害者より(一般観客として参加)

第27回全国身体障害者スポーツ大会「ほほえみの石川大会」は10月26～27日に西部緑地公園陸上競技場で開催され、私も障害者仲間と「ほほえみに 広がる友情 わく力」のスローガンのもと参加いたしました。

心配された天候も、全国の仲間2,200余名を迎えるにふさわしい秋晴れに恵まれ、観客席も満員となり、全国の選手団を迎える特殊学校の児童、生徒による見事な集団演技。ほほえみの輪が披露され、笑顔一杯の入場行進、炬火の場、大会会長の歓迎の言葉、厚生大臣、市長の言葉。皇太子様のお言葉、選手宣誓へと観客の拍手が鳴りやまず胸に込み上げる感涙。涙の笑顔が開会式場を包んでいました。

また、希望と友愛の祭典を盛り上げて下さいましたふれあいの広場には、郷土料理が並んだ飲食コーナーがあり、コンパニオン、ボラティア関係者、6,500人余の温かいご協力のお陰で、全国から参加された仲間へ一生忘れ得ぬ「ほほえみの石川大会」になったことと思います。

大会関係者ならびにボランティアの方々に心からお礼申し上げます。

「ほほえみの石川大会」を観戦して 障害者施設職員・一般観客として参加

はじめに、障害者にとって社会交流は大変重要なことであり必要不可欠のことです。ましてスポーツでの交流は十分な効果も期待できると思います。今回の「ほほえみの石川大会」はそう言う意味でよい機会だと思います。そこで、私が観戦して感じたことをいくつか書きます。

第一に、競技について当日はあいにくの雨で選手にとっては悪コンディションでした。それにもかかわらず、選手は精一杯の頑張りをを見せてくれました。足場がすべり助走がうまくいかない高跳び、幅跳びの選手、車いす自体が滑り、投げた瞬間体が落ちそうなこん棒投げの選手など見てる私も「すべらないか？」など、ひやひやしながらの観戦でした。やはり一番こわいのはケガですから。

第二に、閉会式について、私自身こういうビックイベントの閉会式をスタンドで見るのは初めてで、非常に楽しみにしていました。まず、各学校の生徒による集団演技はよくまとまっていて本当にきれいでした。ただ、この雨の中では多少かわいそうに思えました。もう一つ感じたことは、入場・退場の際のスタンド一体の拍手でした。手話などのボランティア、コンパニオン、大会役員そして、一般の人も合わせて本当に心温まるものでした。私もいつの間にかドシャ降りの雨の中傘を差すのも忘れていました。あと、惜別の言葉もまるで心をうたれるような感動を受けました。

最後に、この大会を観戦して改めて障害者が社会に出るにはボランティアの存在、一般の人の温かい心が必要だと思いました。本当はもっと書きたいことがあったのですが、言葉になりませんでした。私自身もこの人たちを見習ってがんばらなきゃと思いました。本当によいものを見せてもらいました。

「ほほえみの石川大会」に参加して (編集委員・ボランティアとして参加)

「ほほえみの石川大会」が終わった。開会式前の集団演技。鮮やかな彩りのユニフォーム姿がまぶしかった入場行進。きたない声を彫り上げて応援した車いすバスケットの試合。初めてみた盲人野球。その会場出てあった楽しいオジサン。すごい熱気に舞い上がってしまった後夜祭。一つ一つのことが強く印象に残っている。

会場に来て良かった。たくさんの人に出会えて良かった。自分も競技に出たかった。自分にとっては、一生に一度のチャンスである個人競技には昨年、福岡で行われた「ときめきのとびうお大会」に出場することができました。たくさんの人と知り合い、今年は地元の開催で昨年の石川県選手団のコンパニオンと再会することができました。、何かとうれしかった。そんな一つ一つが思い出となり、たくさん感動を与えてくれた皆さん、ありがとう。

パソコン情報サービスに参加して (編集委員・パソコン通信ボランティアとして参加)

自分がまさか、第27回全国身体障害者スポーツ大会「ほほえみの石川大会」に参加することになるとは夢にも思っていませんでした。とはいっても私の場合は、全国の在宅障害者の皆さんをはじめ会場へ来れない方々に、パソコン通信を通して、いながらにして即座に競技の結果などをお知らせするという、全国でも初めての画期的な試みである「パソコン情報サービス」をする人の手助けをするボランティアでした。

最初は、準備期間中に開催されたパソコンの講習会に参加するEさんとOさんが自動車を運転できないので、私が二人が変わって送り迎えをさせてもらっていたのです。回数を重ねていくうちに、情報サービスを提供する仕事ができるのは、身障者の人たちだけではなく一応健全者である自分にも何かできることがあるのではないかと思うようになったのです。それは理屈ではなく、なにか講習会に参加している皆さんを見ているうちに、うらやましきみたいなものさえ感じられ、おのずと私も仲間に入れてはもらえないものだろうか、という気持ちにさせられてしまったのです。

大会当日、EさんとOさんそして私の三人は、「車いすバスケッ」、「卓球」、「盲人卓球」、の三競技が行われる金沢市総合体育館で、車いすバスケットの戦評の入力を担当しました。なかでも私は、もっぱら二人がそれぞれワープロで入力しているとき、誤字の確認をしたり、読みにくい漢字があれば一緒に読んであげたり、あるいは、お昼ご飯のお世話をしたりといった非常に単純なもので、Eさんが入力中疲れて一休みしようかといったときがあったのですが、そのときすかさず入力作業をさせてもらったくらいでした。

今回、この大会に参加できたことでいろいろな勉強ができましたし、様々な貴重なことを経験することをできましたことを、本当にありがたく思っております。またこのような機会があればいいなと思いました。関係者の皆さんご苦労様でした。ありがとうございました。

「ほほえみネット」に参加して

(編集委員・パソコン通信ボランティアとして参加)

今回の第27回全国身体障害者スポーツ大会「ほほえみの石川大会」では、全国では初めての試みとして、パソコン通信で競技結果を全国に流すというサービスが行われました。

私も友人と数回、七尾から金沢まで講習会に通い、本番に向かって練習を積んでいました。当日は金沢総合体育館で車いすバスケットの戦評を打ち込む仕事を与えられました。

私の仕事は試合が終わってからでした。試合の結果が持ち込まれると、パソコンに試合の結果、インタビュー、戦評(試合経過)の打ち込みが始まります。私は戦評のフロッピー化をする仕事でした。長い文章を打ち込み、校正するまでのことですが、それでも全国に流す責任の重みを感じ、時間のないのも手伝ってか誤字がいつもより多くありました。このサービスは大変好評で、全国各地からパソコンを通じて励ましのコメントがたくさん届きました。

パソコン通信は今年4月に始めたばかりですが、それが一気にこんな大きな大会に携わることができたことは光栄に思っております。

ほほえみ国体を終えて

(会社員・パソコン通信ボランティアとして参加)

待ちに待った「ほほえみの石川大会」が行われました。私は幸運にもパソコン通信サービスでの係をさせていただき、このお陰でたくさんの友だちに出会えたことを本当にうれしく思っています。それだけに、観るだけの国体ではなく、「ともに参加させてもらえた」という意味でも、とても思い出に残る大会となりました。

2日目に行われた後夜祭では、まず大勢の人に驚きましたが、選手をはじめ、どの人の顔にも笑顔が光っていました。初めてあった人なのに、まるで以前から友だちだったような気持ちになるぐらい、だれもが明るくて、これがふれあいを持てるほほえみ国体なんだな〜と、とても暖かいものを感じました。

もう見るものすべてが感動の連続でした。競技に取り組む真剣な顔、ハンディを乗り越え、人とのふれあいを大切にする素敵な笑顔。自らが積極的に参加しようとする姿勢など、たくさんのことを教えられたような気がします。そして、同じ障害者でも障害の違いによって、自分には想像もつかない悩みや苦しみがあることを改めて知りました。でも、みんな、そこから逃げるのではなく、それぞれに自分たちのやり方で乗り越えているのを見聞きして、ずいぶん励まされたように思います。

ここで出会えた友情の輪を大切に、これからも交流を続けていきたいと思っています。

最後に、この大会を成功させるために協力して下さった方々へ、心からお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。

「ほほえみの石川大会」閉会式（障害者施設職員・選手の介助者として参加）

「一生に一度の参加」といわれる身障者国体が石川大会ということで、今回、青山彩光苑(身体障害者更生援護施設)からも3名が出場するために介助者として参加させていただきました。リハーサル大会にも参加させていただきましたが、本大会がこんな素晴らしい大会になるとは思いませんでした。

閉会式は朝から降り続く雨で気温も低く、最悪のコンディションの中で全員がカップ着用、カイロ片手という状況のなかで行われました。観客の方の多さにもびっくりしましたが、こんなにもたくさんの人たちが応援してくれたのだなあと、思うと涙が出そうになり、そして、盲学校の女子生徒による力強く堂々とした口調の言葉、炬火が消える瞬間、花火などすべてが感動し、胸が一杯になるものでした。

最後はお別れ。石川県選手団はゲートを作り、各県選手団をお見送りします。全員が「ありがとう」「ごくろうさま」とありったけの誠意で見送りました。また、涙あふれてくるような状態です。このとき、介助者としてでも参加できてとてもよかった。と思い選手の方に感謝しました。本当によかったです。ありがとうございました。

ボランティアとして参加して（会社員・パソコン通信ボランティアとして参加）

「ほほえみの石川大会」が10月26～27日開催されました。私はその大会にパソコン通信のボランティアとして参加しました。パソコン通信では、ほほえみ国体の記録や情報を全国に発信するという「ほほえみネット」が開局され、そのデータの入力オペレータとして参加したのですが、後夜祭の様子を原稿に書きたいと思います。

後夜祭は27日17時半から、閉会式の終了後、産業展示館で開かれました。全国から参加した選手・役員と大会を支えた多くのボランティアの交流の場として開催されたものです。

石川県産業展示館の中の飲食コーナーでは、寿司、そば・うどん、日本海鍋、焼き鳥、その他いろいろな食べ物が屋台で用意されて、もちろん、飲み物もたくさん用意されました。それらが、すべて食べ放題、飲み放題なのです。

私もコップ酒を片手にツマミを持って、会場内を歩き回り、各県の選手・役員の人たちやコンパニオンの女性の方と話をして交流を深めました。「ほほえみネット」のシステムオペレータの井上さんと埼玉選手団に潜り込み、一緒に酒盛りをして楽しんだりしました。

飲食コーナーで飲み食いした後は、場所を屋外のイベントコーナーに移り、野外コンサートです。鈴木聖美のコンサートが開かれました。「ほほえみネット」の仲間と一緒に舞台の近くまで、人垣をかきわけて行って楽しみました。隣りあった選手・役員、コンパニオン、ボランティアと知らない同士でも一体となって、音楽を楽しみ、一緒に踊り合い、友情を深めました。

「ほほえみの石川大会」にボランティアとして参加して、大変よかったと思います。これを機会に障害について理解を深めたいと思っています。

「ほほえみの石川大会」に参加して 地域住民・ボランティアとして参加

「ほほえみに 広がる友情 わく力」をスローガンに、第27回全国身体障害者スポーツ大会が青空の下、西部緑地公園で開かれました。いろいろな障害を持つ人びとが、全国から集まり競技を競う一方、この大会を支える役員やボランティアの人たちとの交流も多く見られました。

国体には問題点もあり、見直しも言われていますが、身障者のスポーツ大会は福祉を考えるうえで大切な行事だと思いました。

また、大会中に多くの人の感想を耳にしましたが、私が一番心に残っているのは、輪島市職員の次のような言葉でした。「私は今まで、このような障害者の世界を知らなかった。奈良県の選手を担当し、数日間寝食を共にして初めて障害者のことが少しわかった。障害者との交流は初めての経験で、今まで何もし知らなすぎました。多くの感動も得ました」と語ってくれました。

後夜祭でのわずかな時間の話し合いでしたが、行政の仕事に携わっている人が一人でも何かを感じ、これからの仕事に生かしてくれればと希望を持ちました。私も以前は何も知りませんでした。3年前に手話サークルに入り、ろうあ者の人たちと交流して初めて障害者には不便で住みにくい世の中だと気がつきました。

福祉行政の行き届かないことや環境の不便さにも増して驚くことは、偏見や過剰な哀れみ、同情を受けていることでした。相手の立場を理解してと、よく言われますが、交流以外に本当の理解はできないと思いました。そう言う意味からも2日間の大会でしたが、多くの人がいろいろな体験をしたことでしょう。

人は体験し、行動して初めて心や意識が変わっていくものです。この大会を単なるお祭りにはしないためにも、大会にかかわったすべての人たちが障害者のこと、福祉のことを継続して考えれば、少しは世の中は変わると思いました。

不便な人に手を貸すのは当たり前の義務であり、手を借りるのは当たり前の権利であるという考えが、社会に根づくのも夢ではないと感じました。このスポーツ大会が、そのような社会の一里塚であって欲しいと思う気持ちを胸に、雨の閉会式で選手に手を振り続けました。

ほほえみの石川大会・一転がっかり

一大活躍の手話のコンパニオン サークル加入さっぱり 555人、奉仕の心も解団

全国身体障害者スポーツ大会(ほほえみの石川大会)に向けて養成された手話コンパニオンが大会後、手話から遠ざかるケースが目立ち、県内の手話サークルへの加入者もさっぱりの状態になっている。短大生や専門学校生ら500人以上が1年半にわたり基本を学び、将来的には日常会話までこなせるような大きな期待を寄せていた県内の福祉関係者らは「継続してこそ力が発揮できるのに」と祭典終了とともにボランティア活動も消え入りそうな雲行きに頭を痛めている。(中略)

大会に向けて一時的に盛り上がった現象に対して「行政がその場しのぎの養成しか考えず、学生も大会や手話に関心があっただけで、ろうあ者のための理解が希薄だったのでは」と指摘する向きも少なくない。県手話通訳派遣センターの北野雅子所長は「大会の華となってくれた学生には感謝の気持ちでいっぱいだが、継続して県内のろうあ者の支えになってほしい」呼びかけている。 —12月4日付北国新聞より—

福祉もの知り博士

公共交通機関について

読者の皆さん、こんにちは。長い期間準備をしてきた「ほほえみの石川大会」も無事に終わったね。大会の準備に携わった皆さん、選手の皆さん、本当にご苦労さまでした。今回は、公共交通機関について講義を行う。

公共交通機関については、駅舎や車両等の整備にあたり、障害者の利用に配慮するとともに介護体制等の充実を図ることとされている。具体的には、鉄道関係ではJRが国鉄時代からの拡幅、段差のスロープ化、エレベーターの設置、身体障害者用トイレの設置、自動販売機に点字テープの貼付、視覚障害者の誘導ブロックの設置を進めてきたが、他の私鉄や地下鉄においても同様の措置が進められている。JR新幹線車両には、車いす専用トイレ及び車いす固定設備が設けられている。

空港関係では、車いすを常備するほか、エレベーターや身体障害者用トイレを設備するなど、障害者の便を図っている。自動車関係では、低床・広ドアバスの導入のほか電照式停留所の設置が行われ、タクシー乗り場にも車いすの便を考慮した整備が図られている。

読者の皆さんのワシへの質問を待っている。日常生活における困りごと、悩みごとを寄せてくれても結構だ。今回はこれで失礼する。

(参考文献・介護福祉士養成講座「障害者福祉論」・中央法規出版)

我が家のペット大集合

～マリリン登場～

地域住民・会社員

こんにちワン=皆さんお久しぶりです。

前回、ボーイフレンドを募集したんだけど、姉ちゃんの書いた絵があまりブスだったから、誰も来なかったの……。今回は写真だし、それに私の自己紹介もするから、誰か友だちになろうヨ=

名 前：マリリン（メス）

生 後：3年5ヶ月

種 類：ロングワイヤーミニチュア ダックスフンド

好きなもの：ちゃあちゃん（お母さん）、姉ちゃんの彼氏、ぬいぐるみ、御茶づけ、ドライブ、かくれんぼ。

嫌いなもの：ちゃっちゃ（風呂）、近所の犬、音のなるおもちゃ。

この前ネ、事故にあって足の骨を折っちゃったの。でも、姉ちゃんの彼氏がリハビリをしてくれたので、とても元気=だからね、友だち一杯作って、一緒かけっこやかくれんぼがしたいんだ。

=ペット大募集中=

このコーナーに登場してくれるあなたの家のアイドルを広く募集しています。

変わった特技、性格を持っているペットがいましたら、このコーナーに紹介して下さい。写真を添えて下さいね。

各地の行事に参加して

第5回石川県風船バレーボール大会

第5回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会は10月6日、松任市の県立若宮健民体育館で33チーム、約300人が参加して開かれ、青山彩光苑Aが優勝しました。

第27回全国身体障害者スポーツ大会(ほほえみの石川大会)の協賛事業で、参加者たちは日ごろリハビリで鍛えた腕を発揮し、椅子や車いすに座ったまま一つの風船を追っていました。

結果は次の通り

1位：青山彩光苑A

2位：レットクロス(日赤病院)

3位：青山彩光苑B

ヤハタバツファローズ(リハビリテーション加賀八幡温泉病院)

風船バレーボール大会

(地域住民・会社員)

10月6日の日曜日、「風船バレーボール大会」に行ってきました。体育館には、33チーム約300名の参加者を6つのブロックに分けて風船バレーボール競技が繰り広げられていました。

風船バレーボールの競技を見た感想ですが、身体の機能訓練やリハビリのために考案されたとあって、それほど難しくないようですね。しかし、腰をいすから浮かしたらルール違反だとか、それなりに各人の機能の差が出ないようにコートの高さやネットの高さ、ルールに工夫を凝らしているようですね。

風船バレーボール見学

(地域住民・歯科技工士)

さる10月6日に行われた「風船バレーボール」ですが、6人がそれぞれのポジションで、すでに座りながら風船の打ち返しをするのですよね。ちょっとイメージが違っていたのは風船が前衛に渡った場合、アタックしやすいように自分で都合のいい位置に持ってこれるところでしょうか。風船は軽いですから、ポンポンと何度でも触れていたわけです。

いや、しかし。試合の盛り上がりもさることながら、応援団のすごいこと=各チームそれぞれバラエティーに富んだ衣装と応援でしたねえ。次回からは応援団賞でも設ければもっと熱が入るでしょうね(笑)。

この風船バレーボール大会は石川県で考案され、関係者は全国的に普及させていこうと考えています。将来は風船バレーボールの全国大会、果ては世界大会にまで発展すれば素晴らしいことですね。

今回の大会でも試合に勝とう、うまくなろうという意識で望むスポーツがそのまま身体的機能の回復を図るリハビリテーションになっているのでしきりに感心していました。

もっと、そういったスポーツが考案され、大会となって普及されると素晴らしいです。

みんなの広場 入籍をしました

地域住民

第23号の当機関紙で、私は精神障害者同志で結婚し、病気が安定していないという理由で入籍を見合わせていると書きました。しかし、主人も週2日の仕事、私は週1日の仕事を一年半持続し、何とか社会人としての生活ができる見通しがつきましたので、待ちに待った入籍を平成3年7月6日にしました。

入籍をしたとたん、いろいろな書類の手続きをしなければならず、ずいぶん忙しい日々を送っています。もう親にも、兄姉にも、世間にも甘えず二人で、誠実にしっかりと生きて行こうと誓っています。

私は市の主催の短歌講座に、月1回参加しています。皆さん大変ベテランで、上手な歌を作っていらっしゃる。私は小学生並の下手な歌で恥ずかしいのですが、少しでも教養を高め、社会の人と一緒に勉強したいと頑張っています。

私は今まで、苦しみから逃げてばかりいましたが、これからは失敗しても、恥をかいてもいいから、前向きに生きて行きます。同病の友人たちとの交流もあり、有意義な日々を送っています。

私は精神障害者ですが、身体障害者の方々とも交流を持ちたいと思っております。私は社会に御恩になっているので、少しでも社会に報いたいと思っております。

私たち夫婦は二人共、体が弱いので人並みに働くことができませんが、できるだけ自分たちの長所と得意などを発揮したいと思っております。

精神障害者の皆さん、身体障害者の皆さん、くじけそうになった時、どのようにして自分に打ち勝っていらっしゃるかお教え下さい。私たちもできるだけ、自分たちの知恵、知識を皆さんに恥ずかしながら、お教えしたいと思っております。

どんなに苦しくても、やはり人間は病院より社会に生きて行くことの幸福をつくづく感じています。どうぞ皆様、今後ともよろしく申し上げます。下手な短歌を2首書き添えます。

- ・老いつ母 腰が少し 曲がりつも 畑を耕す姿がいとし
- ・病める者 同志の結婚 難しく それでも社会に 生きるを感謝

(詩) あなたとわたし 障害者支援施設利用者

今、つめたい秋の雨を感じられるのも
大粒の雨が黒ぐろとしたアスファルトの
上に落ちているのを見ることができるのも
あなたがいるからだ
どこかで感じている
わたしは、あなた程、若くはない
好きな時間(とき)にどこへでも行けない
それから
お金だって稼(もう)げることもしかない
こんなに差があるのに
好きになる気持ちだけは誰にも負けない
だから、ずっとこのままでいて欲しい
あなたがいなければ、冷たい風も
大粒の雨も感じることはできない
今、一枚木の葉が枝から離れました
わたしの心は
いつまでもあなたから
離れることはないでしょう

ニューヨークにて (1)

今回より、数回にわたり富山県パソコン通信ネットの「ネットフ렌ディ富山」の会員である「たぬきさん」がニューヨークに行かれた感想を連載します。

これは全編16編となっています。すべてを掲載できませんので、全編をご希望の方は事務局まで問い合わせてください。

このたび、アメリカのニューヨークへ行って来ました。アメリカの障害者たちと会い、いろいろと話をしてきました。そのことを紹介したいと思います。

1月18日から一週間ニューヨークで反差別国際運動(IWADR)の理事会と国連要請行動がありました。私はちょっと予算のことで「かかりすぎるなあ」という思いがありました。

しかし、一度はアメリカに行ってみいたいという気持ちと反差別国際運動(IWADR)とはどのような人たちが集まり、何をしているのだろうかという思い、そして何よりも昨年アメリカの議会で可決されたADA(アメリカの障害者法)のことについて身を持ってアメリカの障害者とあって話してこよう、街を歩き回ってこようという強い意志を持って行きました。

結論からいえば、思いが80%以上達成できたという気持ちです

1月18日朝8時に大阪空港に集合し、一旦成田に行きそれからワシントンでさらに乗り継ぎニューヨークに向かいました。ニューヨークについたのは18日の午後1時頃です。(ニューヨーク時間です。)けっして5時間で着いたわけではありません。日本とニューヨークの時間差は14時間です。このような18日に同じ時間帯を二度も味わったのは生まれて初めてなので感覚的に変な気持ちでした。実は、着いた日にアメリカでデニス・マックウェドさんと会うことにしていたのですが、その日が19日のはずだったので勝手に違ってきました。日付変更線をまたいでしまったのです。日本時間ではこの着いた時間は夜中ですが、ここは昼過ぎ。眠いようでも眠る雰囲気でない興奮状態の私でした。

空港に置ける日本とアメリカの違い

話は少しもどりますが、日本国内で車いすでよく飛行機を利用すると航空会社の車いすに乗り換えさせられ、一般の乗客よりも早く飛行機に乗せられます。また、羽田や成田に着いたときには一般の乗客が飛行機から車に乗ってしまってから、車いすの人と介護者が別の車に乗せられてそれぞれターミナルへ向かいますし、一緒に乗って飛行機に乗り込みます。

また日本の場合、空港の職員は障害者に話しかけようとしませんが、アメリカで体験したのはどの人も言葉が違うにも関わらず、障害者本人に話しかけてきます。こんなところに違いを感じましたが、これは、飛行機のことに関わらずアメリカにいた5日間の滞在中にも感じたことです。(私は、全く英語はだめである)

18日は着いたばかりなので、近くの食料品店に行って飲み物や果物を買いに出かけました。夕食はホテルにあるレストランで食べることにしました。英語がわからないのでIWADRの通訳をしている山中さんと一緒に食べることにしました。メニューにライスと書いてあったのでそれを頼んだのですが、思い浮かべていたのと違った油で炒めたライスがきたのでした。おまけにライスについているおかずも油濃いものばかりで「こんな物を5日間も食べないといけない」と思うとうんざりしました。　～次号に続く～

本の紹介

ひょっこりひょうたん島熱中ノート

伊東 悟著 実業之日本社 定価:1,100円(税込)

27年前のこと、NHK総合テレビで人形劇『ひょっこりひょうたん島』の放映がはじまった。

「いままでこんな面白いテレビ番組はなかった=2度とあらわれないかもしれない=」と思った小学生がいた。著者である。以後、著者は手書きで綿密な放映記録を取りはじめた。(ビデオのない時代だった。『ひょうたん島』葉、品質においてずば抜けた作品であり、いま、その全容は本書に著者の「熱」によって、背景のまっ青な空もろとも焼きつけられた。

(参考文献・NHK社会福祉セミナーテキスト)

お詫び

今回のテーマは「障害者の結婚生活」の予定でしたが、「ほほえみの石川大会」の特集号としました。「障害者の新婚生活」の原稿は数点いただいておりますが、次号のテーマといたしますのでご了承下さい。

編集後記

今回は「ほほえみの石川大会」に参加された方々の感想を特集してみました。いかがでしたか?一生に一度の感動のドラマが数々生まれましたが、今回、寄せていただきました方々に厚くお礼申し上げます。

新しい年を迎え、「季刊わたぼうし」の内容を充実させて行きたいと思っておりますので、同封のアンケートにご協力いただければ幸いです。(Z.O)

パソコン通信のご案内

「季刊わたぼうし」はパソコン通信によって読んだり、感想や意見を書くことができるようになっています。皆さんの書き込みをお待ちしています。

ホスト局:NTTの『ネットフレンジイ金沢』

電話番号:0762-21-9800・21-9801

ボード:;B;22;4は季刊わたぼうしの読み

B;22;2は感想、意見の書き込み

26号テーマは障害者の結婚生活